

# 編者の言葉

委員 井上縫三郎

紛擾、遠征、優勝、辭職、龍南の危機、代議制、黎明？暗黒等等、——等。學園の生活潮流が恐しい勢で外へ外へと溢れてゆく。私は憂慮した、これでは應募作品も激減しはせぬかと、だが美事に的が外れた、幸ひにも。さまざまの勢で發展せんとする龍南の外的生活は必然的にそれと對存する嚴正なる内的生活を伴ふ。内外生活の辯證法的統一への飛躍！ 暗黒と去れ黎明よ來れ！

我々は今改造の岐路に立つ龍南に對して嚴密周到なる批評の武器をとらねばならぬ。龍南の轉換期——所謂英雄製造の長安の眠りより醒め、眞實の旗の下に我々大衆我等は、革新さるべきである。パンを堀入れ、環境を全体的に握せねばならぬ。而してそれは或る性格所有者に

とりては悲しむべき幻滅の時代である。

九月末、パリに於ける築地小劇場劇談會は有志諸兄の力により稀なる盛況を収めたことを深謝します。築地の來信によれば、來春二月下旬再度熊本の諸君に見ゆる由。出し物は武者小路の「愛慾」と、シュツテルンハイムの「ホーゼ(腰巻)」に内定とのこと。現代日本に於ける唯一の演劇の實驗室、演劇革命の先驅者をして、意義ある事業をなさしめたい。諸君の鑑賞と批評を祈る。築地の近信を御傳へ申し、依りて提灯持をなすこゝ一札如件。

懸賞作品號本年の成績は例年に比し優るとも劣らずと確信する。論文は御遠慮致し、創作は入選三篇を始め大殆に於て粒が揃つてゐた、更に今後の發展を刮目す。詩に於ては委員松尾の「飾窓と金魚」は優篇なり。遺憾ながら掲載不能となる、これは彼が詩壇の新人として推薦さるる。翼の新進の健闘により今歩を振はしてもらひたい。短

歌は山上の歌人連の玉稿來らずして近年にない不振。だが雜誌全体を眺めると決して他校にひけはとらぬと思ふ。今年に選者諸先生の批評を復活した。我々は今向上の過程を辿るものであり、自己の欠陥を他人により指摘匡正され、練習せねばならぬと信じたからだ。

毎年繰返される言葉だが原稿をもつと丁寧に書いてもらいたい。誤字、當字、仮名遣句讀點、校正の時つくづく感ずる。何卒皆さん、印刷工と校正子を可愛つて下さい。そんなに苛めず。最後に文壇に最近乗り出した二先輩を御紹介致します。——妄言多謝

林房雄氏(大正十二年卒業)——文藝戦線の同人にして、文藝戦線、新潮等に於て發表。近く春陽堂より短篇集發行の由。

辻恒彦氏(大正十年卒業)——小山内氏の劇と評論に於て翻譯に評論に健筆を振はれてゐる。